こども食堂
北海道ネットワーク
通信　2022年7月8日vol9

あっという間に7月となりました。猛暑予測の夏の到来ですが、コロナの陽性者が落ち着きを見せてきたと思いましたら、今度は物価高の襲来ですね。この2年半、お弁当配食で、活動を続けて来られた運営者さんも、そろそろ食堂形式に戻し、子どもたちに集まってもらいたいとお考えなのではないでしょうか。さて、この物価高、どう乗り切るか？ですね。

オンライン交流会の開催

6月15日午後6時より1時間半に渡って、オンラインZoom交流会を開催いたしました。札幌市内から10名、登別市や石狩市から各1名、事務局から3名で総勢15名での交流会となりました。テーマは「気になること」でしたが、実情についての話など、話題は途切れることなく続きました。今回は初めてのオンライン交流会でいわば、テスト的な意味合いもありましたが、最後には全員の方にまた開催してほしいという高評価をいただきました。

未来局との懇談会

5月16日、札幌市子ども未来局子どもの暮らし支援担当課、課長引地志保様(新任)、係長越後武介様、江頭路子様(新任)の3名、事務局3名で懇談をいたしました。ネットワークから食材の補助金を出していただけるようお願いし、未来局さんからは「学習支援」についてどうお考えですか？などのお話が出されました。ネットワーク加盟の子ども食堂でも、既に学習支援に取り組まれている団体はいくつかあり、学習の支援で自分は一人ではないと感じたり、また学力が向上すると自己肯定感が高まる効果が実証されています。歯磨き指導や「いただきます、ごちそうさま」の声掛けなどの話も出ましたが、歯磨き場所を確保している子ども食堂がどれだけあるのか、など今後も定期的に市との懇談を行い、情報、検討案件の共有に務めて行きたいと思っています。

ぐれーすさんを、訪問いたしました！

6月1日に開設6周年を迎えるという「こども食堂ぐれーす」さんを(札幌市手稲区曙2条2丁目4-15)当日お訪ねしました。ここは日本福音キリスト教会連合　グレースコミュニティを会場として、代表の亀岡純子さんらが開かれている子ども食堂です。始められたきっかけは2015年の道新の記事で、「認定NPO法人kacotam」(カコタム)が学習支援

(代表の亀岡純子さん･右とボランティアの皆さん。お祝い弁当)

と食事を提供していること、本州ではこども食堂という活動があるのを知り、自分たちも始めたいと、クリスチャン7名のお仲間で準備を進めました。子ども100円、保護者300円で週に一回の提供です。2016年6月の開設の当初は教会の2階の小さな給茶室で調理をしていました。キッチンが狭いため保健所からの要請で最大10名前後、不特定多数に呼びかけることは避け、「札幌市母子寡婦福祉連合会」(札母連)の会長さんに連絡して利用のお誘いをかけました。そうすると人はどんどん増えていき、2017年9月

に教会の役員会の決定で、大きな厨房が作られ、保健所の条件を満たしたことから自由に告知をし始めると、25 人から 30 人くらいに利用者が増え、ボランティアさんも増えて、食事のほか、遊んだり、勉強を見てくれたりなど、活動の幅が一気に広がりました。また札母連のクリスマス会や卒業を祝う会では、出張して料理を提供、2018 年 1 月からは成人式の振袖を用意できない困窮家庭のため、振袖の寄付を募って、クリーニング代のみで貸し出し、着付けとヘアセットもボランティアさんがする活動を開始、お赤飯や煮物のお昼ご飯も無料提供してきました。

2020 年 4 月以降は、コロナ感染予防のため、お弁当配布に切り替えて現在にいたりますが、札母連会長の協力や、Facebook の呼びかけにより、利用者が約 4 倍になっています。予約をしていてもお金の都合がつかず、遠慮して取りに来ない子ども、自分の分は買わずに子どもの分だけ買うお母さん、もちろんそういう方々には手当をされるそうですが、コロナによる経済的打撃がシングル家庭に大きくのしかかるのを実感していらっしゃるそうです。月に4回という素晴らしい、優しさとアイディアに富んだぐれーすさん、これからも頑張ってください、エールを送ります。

（2020年から、北海道科学大学/手稲区で,年に一度、子ども食堂についての講義も受け持たれていらっしゃいます。）

子どもコーディネーターから

今号では札幌市に既に7名の方が配置されております子どもコーディネーターのお一人、巣山淳子様にご寄稿いただきました。

「こんにちは、子どもコーディネーターの巣山です。
今日は少しスペースをお借りして、私たちの活動の紹介をさせてください。

本事業の正式名称は「子どものくらし支援コーディネート事業」、札幌市から公財）さっぽろ青少年女性活動協会が事業委託を受けています。困難を抱えていると考えられる世帯ほど社会的孤立の傾向にあることから、そういった子どもや家庭を早期に把握し必要な支援につなげるため、自ら地域（特に子どもの居場所：こども食堂や児童会館等）に出向くアウトリーチ型の相談援助活動を行っています。各居場所の運営者から情報をお寄せいただき、一緒に作戦を練りながら支援につながれるようにサポートを行う…コーディネーターが直接保護者の方と面談したり、各種申請に同行したり、

他機関と連携したり…等、活動は多岐に渡ります。こども食堂との関わりが深いケースをご紹介することで、本記事の結びとさせてください。皆さまの食堂にも、ぜひお伺いさせてくださいね！

Aさんとは、彼女が利用する児童会館を通して知り合いました。当時、中学校からは遠のいていた A さんですが、もう一歩活動の幅を広げ、地域との繋がりができればと思い、こども食堂に誘いました。1 年半ほどはこども食堂を利用する側でしたが、スタッフの暖かく包み込むような雰囲気が気に入り、自らスタッフをやりたいと言うように。今ではすっかりこども食堂にも馴染み、受付の看板娘として活躍しています。

事務局から　寄付のお申し出、また子ども食堂の立ち上げ方法について聞きたいという方々など、大勢の来訪者がありました。（また子ども食堂が増えますね！！嬉しいことです）。6月3日の「子ども食堂から食の物流ネットワークを考える」には日本で初めて子ども食堂を立ち上げた先駆者、近藤博子さんの講演もあり、とても有意義なものでした。「NPO 法人　全国こども食堂支援センター　むすびえ」とのZoom 交流会では「ネットワークの役割とは何か、ゴールはどこなのか」を話し合いました。人々が経済的、時間的に窮することなく、豊かな関係を結び、子どもが泣くことのない社会になるまで、という言葉が出て「当分、そんな日は来そうもないね、じゃあ、伴走し続けよう！」。また「各地に冷凍冷蔵庫を置く日まで」という具体的な目標も出されました。
次号から札幌市以外の子ども食堂さんにもお伺いいたします。よろしくおね願いいたします。

（編集　飯田澄）

こども食堂
北海道ネットワーク

〒003-0803
北海道札幌市白石区菊水三条4丁目1-3
こくみん共済coop北海道会館4階
☎ 011-841-8601
https:// ks-hokkaido.net
info@ks-hokkaido.net